HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アンケート結果
Citation	189-205 第6回 人文・社会科学系研究推進フォーラム報告書 III アンケート結果
Issue Date	2021-03-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/83457
Type	other
File Information	JF6_hokudai_3_questionnaire.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

Ⅲ アンケート結果

本フォーラムでは、講演の部、ワークショップの部の閉会後にそれぞれ参加者に対してアンケートを送付した。回答結果について、今後のフォーラムの開催のために参考となる等、参加者と情報共有すべきであると主催者側で判断した集計結果・自由記述の意見・感想について、以下に掲載する。なお、自由記述での回答は、誤字の修正等の編集を加えている。

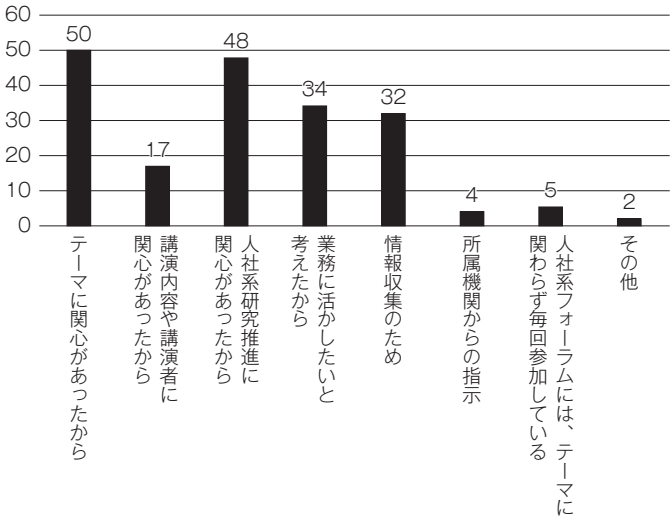
1）講演（10月3日開催）

■アンケート配布数（＝ウェビナー参加者数）155

■回答数　66　　■回答率　42.26％

質問1. フォーラムに参加した理由（複数選択可）

テーマに関心があったから	50
講演内容や講演者に関心があったから	17
人社系研究推進に関心があったから	48
業務に活かしたいと考えたから	34
情報収集のため	32
所属機関からの指示	4
人社系フォーラムには、テーマに関わらず毎回参加している	5
その他	2



〈理由の詳細や補足（自由記述）〉

■文理融合に興味があり、一度話を聞いてみたいと思っていた。

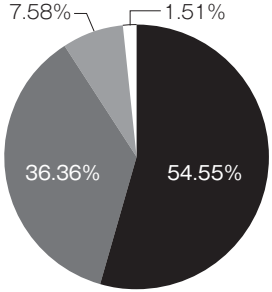
■日本における人文・社会科学系の研究が理工医学系におけるそれと比してもっと国際競争力をつけるにはどうすればいいのかを知りたかった。

■1970-1980 年代に行われた類似の取り組みからどの程度進化しているか、興味がある。

■各大学の動きや今後の計画を知りたかった。

質問 2. フォーラムの感想
a）イベント全体について（総合評価）

■満足	36
■やや満足	24
■ふつう・どちらでもない	5
□やや不満	1
▤不満	0



〈意見・感想（自由記述）〉

■初めての試みで難しい中、スムーズかつ細部まで配慮した準備、構成、進行でした。

■こういった企画への参加は初めてでありましたが、各研究者の先生方の取り組みを通じ、理解を深めることができました。

■人社系フォーラムに参加したのが初めてですので、何かと比較できるわけではありませんが、人社系が考える異分野融合や学際研究というものが少し理解できた。

■基調講演と事例紹介の構成のバランスがとてもよかったと思いました。

■初めてこのテーマでの参加でしたが、いつもなかなか聞くことができない方ばかりの話でしたので、とてもよかったです。

■現在進行中の研究企画によく参考になった。

■どなたの講演も大変有意義な内容だったと思います。プロジェクトの進め方や考え方のいろはとしてはもちろん、URA 職のキャリアのあり方を考える

にも勉強になりました。ありがとうございました。

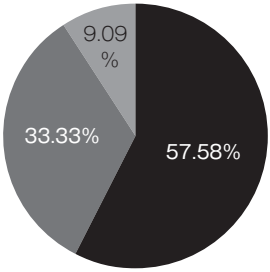
■人文社会系の共同研究、さらには理系研究者を交えた共同研究は、あまり慣習としてなかったと思うので、このように体系的に、さらに事例を入れて説明いただいて、よく分かりました。

■1 日で得られる知見が多く、事例も他大学にも非常に参考となるものばかりで参加費無料とは思えないほど有意義でした。

■講演者に共通する課題があるのがわかった。

b）講演：第 1 部　基調講演について

■満足	38
■やや満足	22
■ふつう・どちらでもない	6
□やや不満	0
▤不満	0



〈意見・感想（自由記述）〉

■非常に興味深い事例が紹介されていました。

■順番もとてもよく、2 名の先生の内容も異なっており、大変面白かったです。

■こういった企画への参加は初めてでありましたが、各研究者の先生方の取り組みを通じ、理解を深めることができました。

■人社系のプロジェクトというものが手間や時間が掛かることが理解できた。

■近藤先生の内容は、分野毎の価値観の相異（に関する調査結果）、オープンサイエンスに関するメソッド、直面するジレンマ等、自身の活動に刺激を与えてくれる内容が多かった。城山先生の内容は、ご自身の関わられた経験に基づき、日本における人文社会系の取り組みに関するコンテクスト、そして今後の方向性が理解できた。

■学際研究の進め方が具体的でわかりやすかった。

■城山先生の人社系ファンドの設計側からのお話を聞けてとても参考になりました。JSPS の人文・社会科学振興プロジェクト研究事業（2003-）で、トッ

プダウンの「領域」とボトムアップの「グループ」、その間をつなぐ「プロジェクト」という設計がとても先進的と感じましたが、わたしの所属機関でも、ボトムアップ型の研究プロジェクトを機関としてどう統合して成果を蓄積・展開するか、という部分でずっと試行錯誤が続いています。ここの部分のご苦労や工夫点などもっとお伺いしたいなと思いました。

■学際分野の研究のポイントや、分野ごとの「環境」に対する視点の違いなどが参考になりました。

■文系、理系、どちらががリードするかどうかではなく、融合した研究が必要という視点で、課題意識が高かった。

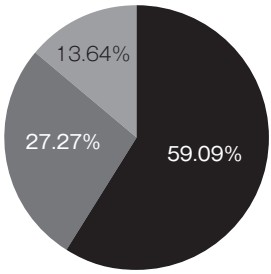
■学際的研究が求められている社会的・歴史的背景がよく分かりました。

■講師から自分の知りたい情報を得ることができた上、業務に活かす方法を考えることができた。

■非常に掘り下げられた豊かな内容だった。メモを取りながら真剣に聞かせていただいた。

c）講演：第２部　事例紹介について

■満足	39
■やや満足	18
■ふつう・どちらでもない	9
□やや不満	0
▤不満	0



〈意見・感想（自由記述）〉

■非常に多様な立場や分野からの事例紹介で大変勉強になった。

■プロジェクトにおける理念やコンセプトの設定に注力し、しっかりしたものを持っていることが理解できた。

■高橋先生の「マンダラ」は次の議論のキーになるようで、大変に興味深かった。

■各事例から教わることが多く、このような知の体系群の中で、自分にとっての人文社会系の取り組みがどうあるべきか、包括的に考えることができた。

■人社分野での産官学連携の類型が学べた。

■ステークホルダーの存在や現場など具体例が興味深い。

■自分の研究分野にも活かすことができそうな考え方があった。

■非常に勉強になりました。すでに行っていることを例としてあげておられたので、理解が容易になりました。

■テーマに即して具体的事例を詳しく知ることができた。

■まさに今回のテーマ、人社主導の学際研究プロジェクトのよいエッセンスが詰まった内容でした。人社主導プロジェクトを開始する際のよいモデルケースとして他大学で広く活用できる大変貴重な内容と感じました。

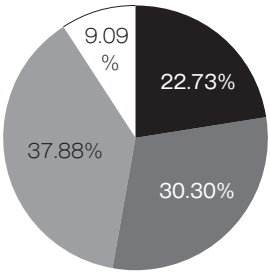
■事例は面白いが、プロセスはあまり説明されていない。

■人文社会系という学問分野の専門性と、国際貢献の関係を知りたかったが、専門スタッフの配置や使い方の話が多く、現在の自分の立場や取り組みの点からは、あまり参考にならなかった講演があった。

■地域社会を巻き込む事例に偏っていたように感じました。大手の技術系企業は、技術開発そのものに文系知を入れる必要があります。そういった視点で今回の事例をお聞きすると、レベルと視点の差など、大学との間に距離を感じ連携の相談がしにくくなってしまうと思います。単に「事例」というのではなく、「事例の内容」にも気を配ると、文理融合研究の幅が広がるのではないかと感じました。

d）講演：質疑応答部分について

■満足	15
■やや満足	20
■ふつう・どちらでもない	25
□やや不満	6
▤不満	0



〈意見・感想（自由記述）〉

■他機関の関心が判り良かったです。

■質問がもう少しできればよかったが、これ以上は無理、という状況でもあったかと思います。質問についても先生方からチャットでの回答もあり、十分でした。

■こういった企画への参加は初めてでありましたが、各研究者の先生方の取り組みを通じ、他参加者の問題意識を共有していただくことで、更に自身の理解を深めることができました。

■素晴らしい司会進行のもと、お伺いしたい内容を様々な角度から理解できました。

■個別の質問もどのようなものがあったか知りたかった。

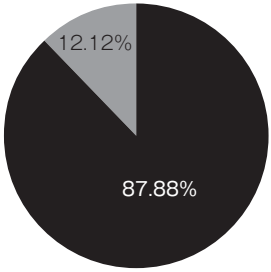
■討論の時間は、（次回のワークショップに活きるものであるとしても、今回だけでも）もう少しあってもよかった。

■時間が足りなかったので仕方がありませんが、もう少し聴衆からの質問が活発になればよかったです。

■質疑応答の時間をもっととってほしかった。話題提供者同士のディスカッションも聞きたかったし、参加者から寄せられた質問も紹介してほしかった。Ｑ＆Ａに書きこまれた質問や、回答を十分にフォローする時間がなかった。

質問 3. 次回、同様のイベントがあれば参加したいか

■参加したい	58
■どちらともいえない	8
□参加したくない	0



〈その理由（自由記述）〉

■他機関のお話を伺う機会は非常に貴重です。

■普段から言葉や形にはできず感じていた部分が明確化された会でした。非常

に勉強になった。

■学際分野、超学際分野の研究において、人社系のプロジェクト参画は大きな課題であり、引き続き、日本全体で意識と学びを高めていく必要があると考えています。

■人社系プロジェクトは事例が少ないため、できるだけ情報を持っておきたい。

■今後の新たな情報収集のために参加したい。

■自分の分野の研究者や所属先の職員だけでなく、多様なバックグラウンドの方達が集まる場なので参加したい。

■他大学の様子が本学でも参考になる。

■定期的に最新情報に触れる機会があると、問題意識や業務の質をより高い質で維持できる。

■オンラインは職場にいながら参加でき、わからない内容は別画面で調査するなど、効率的である。

■人文・社会科学系の研究推進方法についての情報が不足しているので参加したい。

■人社がメインのイベントは他にないので参加したい。

■有益な情報を得られたため、継続して参加してみたい。

■自らの研究プロジェクトの参考になるため参加したい。

■今回の内容が、今日の人社系研究を取り巻く環境や、人社系研究の強みを感じられる内容で、人社系研究の発展に非常に参考になるものであったためです。次回以降のフォーラムにも期待が膨らみます。

■自分の業務に関連しており、自己研鑽になる。

■人社系の研究プロジェクトの事例をお聞きし、業務に活かしたい。

■内容が自分の業務や関心に合っていて強く興味があること、オンライン開催時の段取りや使用ツールが参考になること。

質問 4.　今後、人文・社会科学系研究推進フォーラムや JINSHA 情報共有会で取り上げて欲しいテーマ

■URA と研究者、研究者と研究者とのつなぎの取り組みについて

■自然科学系研究者から見た人社系研究参画のおはなし

■今回の琉球大学水循環プロジェクトのように地方大学の取り組み事例

■科学技術基本法改定と人社系研究

■研究成果の論文執筆や投稿について

■人文・社会科学系の存在意義

■国・地域によってアカデミズムの歴史が異なることから、求められる役割や流行が相対的に異なるように思います。そういった世界的潮流の中で日本をどう位置づけるのか、といった試みもあればいいかなと思います。

■人文社会系と産学連携・地域連携について

■研究戦略を立案する研究マネジメント人材の役割について、その具体例と課題

■人文・社会科学系 URA の活動報告や業務指針となるようなものを取り上げていただけると助かります。

■私立大学、公立大学の人社系推進に関する取り組み

■成果発信（研究 DX に絡めて、デジタルでの成果発信）

■人文・社会科学系の研究広報

■医学系との関わりあるテーマについてもっと知りたい。また、完全に人社系ではない研究者の関与の事例について詳しく知りたい。

■法律・政策系の話題を希望します。

■研究プロジェクトの「自己評価」の評価

■大学経営者が必要とする URA

■異分野連携、特に理工系との連携について

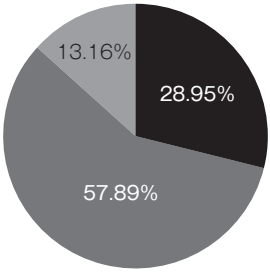
2）ワークショップ（10 月 9 日開催）

■アンケート配布数　76（※当日欠席者含む）

■回答数　38　　■回答率　50%

質問 1　ワークショップの感想
a）全体について（総合評価）

■満足	11
■やや満足	22
■ふつう・どちらでもない	5
□やや不満	0
▤不満	0



〈意見・感想（自由記述）〉

■Zoom だけでなく、他のオンラインツールと組み合わせ、とても有効なオンラインワークショップになっていたと感じました。

■自身が参加したグループの意見が活発で、他グループの話も議論内容が聞けたことも有益で、いずれも大変興味深く、且つ業務に非常に役立つ内容であった。

■理系と文系の専門家たちが共通の課題で議論する場は貴重である。課題設定もユニークかつタイムリーだった。主催機関もふさわしいと思った。

■様々な取り組みを知ることができた。

■事前のグループワークやテーマ設定等の準備期間を含め、当日のワークショップがスムーズに進行するよう運営側の工夫が随所に現れていた。

■課題の設定が面白かった。

■大変勉強になり、また同じ課題を抱える人社系の URA が全国から一同に会した場にいられて、かつ議論ができたのは、孤立しがちな人社系 URA の業務へのモチベーションが上がりました。

■ワークショップとして、もう少し活動の時間があってもよかったかもしれま

せん。

■全体として問題意識が共有されており、有意義でした。

■楽しく進行し、楽しく終了した後も連絡を取り合うグループだった。

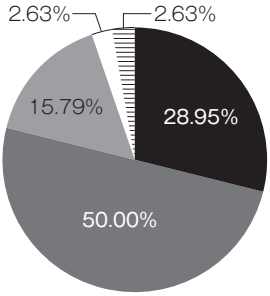
■人文社会系のURAの戦い方をいろいろ学べて良かったです。でも、50分間という討論時間がやはり短いと感じました。よく練れたグループは事前にメールでかなりのやり取りがあったようです。

■様々な方々の意見を知ることができた上、最後に鈴木一人先生の文理融合に関して今後の指針となるお考えも伺え勉強になりました。

■50分というグループディスカッションの時間が短すぎて、議論が深まらなかった。

b）グループワーク（ブレイクアウトルーム）

■満足	11
■やや満足	19
■ふつう・どちらでもない	6
□やや不満	1
▤不満	1



〈意見・感想（自由記述）〉

■担当者には、事前での打ち合わせ、当日の課題設定なども行なっていただき、グループメンバーとの（事前も含めた）セッションも、とても良かった。特に、グループワークは、オンラインの状況を上手く活用しながら全員での意見出しが出来ており、いくつかの課題に様々な意見を自由に話し合う時間になっていた。

■ワークショップで実施する内容や議論を事前に深める工夫がなされており、安心して参加できました。また、当日、ファシリテーターの他に、メモ担当の方もいらしたので、話題の可視化ができ、漏れなく話せたように感じました。

■異なった視点から分野融合の議論ができて勉強になりました。

■企業の方も参加されており、日常業務では難しい、産と学の両方の視点から人社主導の異分野融合・産学連携について議論できたのは大変貴重な場でした。大変感謝しております。

■リラックスした雰囲気で忌憚なく話ができた。

■研究者目線の議論に終始してしまったところがあり、URA の人が発言しにくかったのではないかと思った。無理やり URA で解決できる方法があるのでは？という意見をだして URA 側の議論にシフトするようにしてみたが、それが必要だったのかどうかわからない。

■8 名で 50 分だと少し短いような気はするが、雰囲気が良いチームで楽しかった。

■与えられた時間が短すぎた。テーマを工夫するか、事前の準備を工夫するかしないと有意義にするのが難しい。

■学際研究において、うまくいかない原因をいろいろ分析できたのは良かったです。ただ、こちらの問題なのですが、科研費申請書のブラッシュアップがピークを迎えており、時期的に十分な準備ができず、議論にうまく参加することができませんでした。

■少し時間が足りなかったので仕方がなかったのですが、事前にグループワークの手順についての一例もいただけたら、さらに有難く思いました。

■極端に言えば、人社系の人しかいない中で議論しても方向性は出てしまうのではないか。人社系の人の中立的な議論を期待。

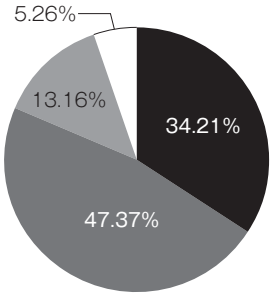
■グループで主に取り上げられた話題が期待していたものと違っていた。グループリーダーの裁量によって、事前準備しているところとそうでないところがあり、議論の深度がグループによって差があった。

■議論が発散していました。

■時間が短く十分な意見交換ができなかった。議題の設定に時間がかかった。

c）全体討論・講評

■満足	13
■やや満足	18
■ふつう・どちらでもない	5
□やや不満	2
▤不満	0



〈意見・感想（自由記述）〉

■各グループワークの内容共有を、共通フォーマット等で行なってもらえると、さらに良かった。

■他のチームが面白い話題で話し合っていたらしいことがわかり、もっと知りたくなりました。

■学際研究の現状をよく理解できた。

■Zoom だけでなく、他のオンラインツールと組み合わせ、全体の議論が見やすかったです。

■先生方のご指摘、お話が非常に参考となりました。

■講評いただいたことにより、1 日目の講演の内容の理解がより深まった。

■鈴木先生が各グループの発表の様子を聞きつつ、細かにコメントを入れてくれたので、学生参加者含め良い経験になったと思われる。

■いろいろな考えを聞くことができ、業務に活かせると思った。

■全体討論の時間が十分とは言えませんでした。

■報告だけで終わってしまった感がある。

■他大学の状況をいろいろ知ることができたのは良かったです。ただ、やはりこちらの問題なのですが、これまで、ほとんど人文社会系の研究支援にまだ携わったことが無かったため、知識不足でありました。また、繁忙期で準備をして臨むことができませんでした。

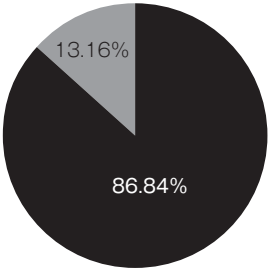
■全体討論というより、司会の方と 3 日の話題提供者との討論のようだった。

■全体として、テーマ設定は悪くなかったものの、個別のグループの視点がや

や研究者然とした視点であり、抽象的であった。URA や教員、資金配分機関が参加しているのであれば、もうすこし構造化した議論が出来たのではないか。

質問 2. 次回、同様のイベントがあれば参加したいか

■参加したい	33
■どちらともいえない	5
□参加したくない	0



〈その理由（自由記述）〉

■他機関での問題も共有できてよい。

■最新の人社系研究推進についての問題点の共有と、その取り組み方について、様々な方の意見を聞く機会、また自身が考える良い機会になった。

■同じ職種の人たちと現状認識のすり合わせや課題の共有ができ、解決までは行かなくても、業務上のヒントがもらえる。まだ歴史が浅い職種のせいか、今は別大学の URA が競争相手というより、手探りの協力者、伴走者のようで、この熱気は代えがたいものだと思います。

■オンラインであっても現地集合であっても、ぜひ、皆さまといろいろな議論の機会を持ちたいと感じています。

■学内で人社系の研究力強化等について議論をする相手（職員等）も少ないため、今回のイベントのように考えを深め、遠慮なく愚痴をこぼせる会は大変貴重な場でした。

■限られた時間での大きなテーマのディスカッションは、その場では消化不良な感じが否めないのですが、その後ああいえばよかったこういえばよかったと自分の中で考えるきっかけになるのがありがたいです。

■関心の近い方々と関わる素晴らしい機会になったので、次回以降もぜひ参加

したいです。

■他大学との情報交換やネットワーク作りにとって貴重な場だと思っている。

■これから、所属先の大学でも学際研究支援に取り組んでいこうと考えています。次回はその取り組みについて報告してみたいと思いますし、それに対する意見をいただきたいと思うからです。

■このようなシンポジウムは、業務に役立つ知見が多い。

■人社系のプロジェクトまでは理解しますが、失礼ながら、人社系の人だけで閉じているように感じられました。それで議論が深まるのでしょうか。

質問 3. フォーラム全体への意見・感想

■グループ毎の準備や議論の内容に工夫があり、勉強になりました。ありがとうございました。

■フォーラムの回数を増やし、他大学の多くの取り組みについて聞いてみたい。

■今回のイベントは「文理融合」「人社主導」ということについて、議論の方向性が良くなかった。ただ一声でそのような言葉を語っても、一体どういうフェーズでどういった時に、どういう機能をお互いに求めているのか、など、まさに URA や研究者・JST の方が考えていかなければならないはずなのに、そのような視点に欠けていた。対面でネットワーク構築を目的としたイベントであるならば、今回のような方向性でも良いかもしれないが、何らかの学術的に方向性をまとめていくものであるならば、各ブレイクアウトの仕切りや、全体のプライミングをもう少し絞った方がよいと考える。

■今回の内容は、研究者側にとっても参考になるお話だったと思いました。次回ももしも web 開催等で気軽に参加できる機会がありましたら学内研究者への参加も促したいと思いました。

■教員の活動はよくわかりましたが、URA の役割はあまり見えなかったです。URA はどのようなサポートしているのか知りたい。

■学際系は人社だけでなく理系の研究者の意見も一緒に聞いてみたいです。

■開催地が遠いと参加できない場合があるので、web で視聴できるととても助かります。

■今回はオンラインであるがゆえに参加できた。今後も対面・オンライン双方の運営を希望します。